

平成30年12月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 平成30年12月19日(水) 開会 午前10時 2分
閉会 午前10時47分

場所 第1委員会室

出席委員 諸井真英委員長

吉良英敏副委員長

横川雅也委員、齊藤邦明委員、立石泰広委員、野本陽一委員、

江原久美子委員、水村篤弘委員、安藤友貴委員、大嶋和浩委員、金子正江委員

欠席委員 鈴木弘委員

説明者 [県民生活部]

矢嶋行雄県民生活部長、山野均スポーツ局長、大浜厚夫県民生活部副部長、
依田英樹スポーツ振興課長、都丸久ラグビーワールドカップ2019大会課長、
斎藤勇一オリンピック・パラリンピック課長、浅見健二郎文化振興課長

[福祉部]

関根健障害者福祉推進課主幹

[県土整備部]

金子勉道路街路課長、大山裕道路環境課長

[都市整備部]

北田健夫公園スタジアム課長

会議に付した事件

スポーツの振興について

横川委員

- 1 ラグビーワールドカップ2019についてであるが、大会組織委員会の全体予算534億円のうち、チケット収入の割合が大きいのは明らかである。年明けに落選者向けの販売と第2次の先着の販売を実施することだが、大会組織委員会がチケット販売全体の5割ぐらいを持っているようである。現状、既に何割ぐらいが販売されていて、実際、2次販売において、どれぐらいが見込めるのか。また、熊谷での試合については、チケットの販売状況はどうであるか。
- 2 資料3、埼玉アスリートの競技力向上事業について、プラチナキッズは4年生から対象に育てていくという流れになっているかと思うが、一番後ろの修了生の活躍というところで、全国大会出場競技が15競技とかなり幅広い、いろいろな種目が入っている。この修了生は元々こうした競技をやっていて、その延長線上として修了生となって、能力を磨いた上で活躍されているのか。それとも、全くこれらの競技に臨んでいなかった子供たちが、事業を通じた中で才能を見出だされて新しい競技に臨んだのか、この現況について教えていただきたい。

ラグビーワールドカップ2019大会課長

- 1 ラグビーワールドカップの全体のチケット販売状況と熊谷の試合の販売状況は、正式なデータは組織委員会が管理しており、我々にはデータは来ていない。非公式に電話で問い合わせさせて教えていただいている状況では、現在、全体で7割程度が売れていると聞いている。また、9月19日から11月12日にかけて、第1次の一般抽選販売が行われた。販売目標数は全体で180万枚と言われているが、9月から先月までの募集で200万枚を超える応募があったということであり、取りこぼしというか、買いたいお客さんに対して全部売り切れていない状況にあると聞いている。

委員のお話にもあるように、組織委員会が個人向けチケットとして全体の50%を持っており、残り半分はワールドラグビーが各国の協会やチーム、オフィシャルスポンサーなどに売っているチケットであるが、これを国内に戻しきれていないと聞いている。来年1月19日から先着販売が始まるので、組織委員会としては早くチケットを戻して欲しいとワールドラグビーに話しているとのことである。

熊谷の試合のチケットの販売状況についても、全体の7割とほぼ同等の数が売れていると非公式に聞いている。

スポーツ振興課長

- 2 元々やっていた競技と、全くやっていた競技は混在しているというのが実態である。野球、テニスといったものについては、既に経験のある子供たちが入っている。一方でフェンシングやトランポリン、ライフル、自転車といった競技については、体験を通じて、私どもの方で本人の身体特性などを見て、適性を見出し、本人の希望などに基づいてその競技に行き着いたものである。

横川委員

アスリートの方で最後に一点だけ質問をさせてもらう。4年生から6年生というのは、男女でも身体的な成長は全然違うと思う。男子は中学生になって急激に体が大きくなって

いく中で、潜在的な能力の見分けというのは、具体的にどういうスタッフたちがどういう風に行っているのか。

スポーツ振興課長

御質問いただいた能力の見極めというのは、かなり難しいというのが現状である。成長が早いお子さんと遅いお子さんがいるので、その見極めは専門家でも大分難しく、選考会議では、毎年意見が交錯している。選考委員会は大学教授や専門トレーナーの経験がある方などに委員をお願いしており、選考委員会をもって対象者を選考しているところである。

安藤委員

- 1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホームステイについて、登録件数が656件ということだが、県としての目標値は何件であったのか。
- 2 ボランティアについて、応募者の年齢はバランスが取れているが、地域的なバランスはどうであったのか。競技会場のあるところが多いのか、それとも県内まんべんなく応募があったのか。
- 3 横川委員の質問に関連するが、アスリートの関係について、自分に合ったスポーツというのは、自分が好きなことをやるのが一番だとは思いますが、ただやはり自分の身体能力に合ったスポーツを見つけるのが一番難しいと言われている。この認定の方法について、かなり選定に苦慮をしているということであるが、認定された30人の適性に合うスポーツを決める役割をする方々は、どのように吟味を行っているのか。

オリンピック・パラリンピック課長

- 1 ホームステイの県の目標値については、表には出していないが、内部的には今回の募集で500件を目標としていたところ、これを超える656件の御応募を頂いた。
- 2 ボランティア応募者の地域的なバランスについては、さいたま市や川越市など競技会場のあるところは比較的多い状況である。人口の多いところ、県南部、交通の便のいいところが人数的には多いという印象である。なお、63市町村全てから応募があった。

スポーツ振興課長

- 3 私どもの事業の中の名称で「パスウェイプログラム」というものを持っており、そちらの中で競技団体、体育協会、スポーツ振興課の保健体育の教員経験者といった者たちで合議を行って、身体特性、身体能力の特性の協議をして、その子の適性を見極めている。その上で、本人の希望と保護者の意向を踏まえ、競技団体に引き継ぐような体制をとっている。

大嶋委員

- 1 ラグビー場のハード整備について伺う。Aグラウンドは、ワールドクラスのすばらしいものへと整備された。一方、B、Cグラウンドは、観覧席やスコアボードの老朽化が進んでいる。この点について、整備計画はどうなっているのか。
- 2 熊谷駅からラグビー場までのラグビーロードについて、それぞれの管理者が整備を進めていると思うが、例えば歩道橋の老朽化や街路灯、信号機が色褪せている箇所がある。これらについて、補修計画はどうなっているのか。
- 3 来年の9月6日に日本代表の壮行試合として、熊谷ラグビー場における南アフリカ戦が決まった。チケット販売や県民の大会認知度向上など、ワールドカップを今後もっと

盛り上げていくためにも、この試合をどのように活用してPRの機会としていくのか。

ラグビーワールドカップ2019大会課長

- 1 B、Cグラウンドの整備については、日本ラグビーフットボール協会や関東ラグビーフットボール協会等をはじめ、利用されている方々から強い要望を受けている。両グラウンドは、平成3年の開設以来大規模な改修は行われていない。Aグラウンドは立派に整備されたが、全国大会を開催する場合、3面又は4面を使用するので、我々としても改修は必要だと認識している。現在、来年度の予算要求も含めて検討しているところである。
- 2 ラグビーロードについては、熊谷市が街路灯やモニュメントの整備を進めている。県は、「北に行くとラグビー場」、「南に行くと熊谷駅」というような歩道の路面標示や、一部の歩道の遮熱塗装、路盤のインターロッキングの貼り替えなどの整備・改修を行っている。
- 3 日本代表戦については、我々としても一番良いタイミングで一番良い対戦カードが来たと考えている。来年度の日本代表戦は4試合しかなく、このうち国内では3試合しか行われぬ。釜石と花園で試合が行われた後、直前の一番良いところで熊谷に来る。我々も認知度向上に向けて、この日本代表戦を大いにPRさせていただき、ワールドカップ本番も含めて客席が満員になるよう努めていく。

道路環境課長

- 2 御指摘の歩道橋については、国道17号に設置されており、管理者は国土交通省である。状況は認識しているので、国にも整備をお願いしているところである。引き続き、働き掛けていきたい。また、信号機等については警察の所管でもあるが、設置されている柱が共架であり他の管理者の所有する柱となっている。しかし、この柱の管理者が現在不明であるため大至急調査し、今後、警察とも調整して対応を進めてまいりたい。

水村委員

- 1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の都市ボランティアは、具体的にはどのような活動を行うのか。待遇について、現地に行くための交通費等、実費の弁償があるのか、万が一事故等に巻き込まれた際の保険はどうなっているのか。また、応募総数9,650人に対して募集人数5,400人ということだが、こういった条件で選んでいくのか。
- 2 資料3のプラチナキッズについてであるが、倍率が40倍前後と非常に高いが、今後募集人数を拡大していく予定はあるのか。また、一人当たり幾らくらいの育成費用が掛かっているのか。修了生の活躍について、この事業が始まる前と比べて本県からの全国大会等への出場者や入賞者が増えているのか、開始前と後の事業の効果を教えてもらいたい。
- 3 ドリームアスリートについても同様に、事業の始まる前と後の比較、事業の効果がどの程度あるのか、教えてもらいたい。

オリンピック・パラリンピック課長

- 1 都市ボランティアの活動は、駅周辺における競技会場までの御案内と、周辺の飲食店や観光名所、見どころなどの御紹介・PRが主なものである。待遇については、交通費、食費、通信雑費などを含めて、クーポン等で提供することとしている。保険については、

県が一括して加入する予定である。

選考の方法は、応募の際に活動希望エリアを聞いているので、まず応募者をエリア別にならし、超えている部分は年代のバランスを見させていただき、その上で、これまでの経験や生かしたいスキルなどを考慮しながら選考を進めていき、最後に同じような条件になった方は申し訳ないが抽選とした。

スポーツ振興課長

- 2 まず、募集人数は増やすのかであるが、きっちり30名にしなければならないと考えているわけではないが、選考会議で選考していく中で、将来トップアスリートになるレベルの身体特性などを見ていくと、30名がほぼ妥当であるというのが今の選考会議の委員の意見である。そうしたことから、私どもは当面この30名という数字で育成に努めていきたい。

次に、育成費用であるが、単純に割り戻す形にすると、一人当たり14万円程度の額になる。

次に、全国大会についての効果であるが、総合的な数字については年によって違うので、直接的に効果があったかどうか比べることは難しいが、例えば先ほどお話ししたフェンシングやトライアスロン、近代三種、ウエイトリフティングというような、これまで埼玉県では全国大会に出場が中々なかった競技で新たに出場できているのは間違いない。子供たちの適性に合わせた競技につなぐという意味では、私どもとしては大変効果のある事業であると捉えている。

- 3 ドリームアスリートについては、オリンピックを目指して実施している事業であり、最終的な結果はオリンピックということになるわけであるが、これまでのドリームアスリートの活躍状況を見ると、本年のアジア大会でも、14名の出場者全てがメダルを取っており、トップアスリートの育成に大変意味のある事業であると捉えている。